

週刊

こんにちは日本共産党です  
**八千代市議団ニュース**

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754  
 いはら 忠 ☎(488)7207

発行

日本共産党  
 八千代市議会議員団

八千代市大和田新田  
 312-5  
 ☎(483)1151

## 決算審査特別委員会で、H26年度決算が不認定に

H26年度予算は、秋葉市長のもとで編成されたはじめての予算であり、その支出が市民のいのちと健康を守る予算として執行されたのか、さらにはH28年度予算にどう反映されるのかが審議するのが、決算特別委員会です。

9月14日から17日までの4日間にわたって審査が行われました。その結果、議案第7号 一般会計・特別会計について、新・みんなの広場以外が、不認定とし、小澤議員（市民ク）、植田議員（共産党）が討論、原議員（新・みんなの広場）が認定の立場で討論しました。

### 日本共産党が不認定としたのは

秋葉市長が市長選挙で掲げた「市民の会」との26項目の公約を実現する絶好の機会でした。

特に、福祉タクシー券の復活、子ども医療費の中学校卒業までの拡充、福祉作業所の建て替えを促進することなど市民の切実で緊急なものでした。しかし、秋葉市長が当初予算に計上したのは、子ども医療費について小学校6年生までとするにとどまりました。市議会は、学級費の保護者負担の軽減を含めた4項目の修正案を提出、全会一致で可決成立しました。

ところが秋葉市長は、子ども医療費を中学校卒業まで無料にしたことで、財政危機に一層拍車をかけたと市議会に責任を転嫁する一方で、H27年元旦号の広報八千代での新年のあいさつのなかで、子ども医療費を中学校卒業まで拡充することができたと誇っているのです。

さらに市長は、市民税個人分の税収につながる現役世代、特に子育て世代の人口増加策が必要不可欠であるとしながら、実際の市政運営では、保育園の待機児童が239名（8月1日現在）にもなっているのに、保育園の新增設など待機児童解消の施策を示していません。



### H27年度予算編成でも13億円もの市民負担増

秋葉市長は、H27年度予算について、35億円もの財源不足が生じるとして、下水道料金の値上げ、中央図書館駐車場の有料化など、次々に市民に負担を押しつけています。

しかも、市民との合意形成を行わず、一方的に押しつけてきたのです。このことを指摘されると、「誰が市長をやっても同じ」と居直っています。

保守系・公明が、決算を不認定としたことについて、H26年度当初予算に修正案が可決されたことで、賛成していたのに、どうして不認定としたのか疑問との声も。